U.S. Indicators

発表日:2018 年 9 月 14 日(金)

米国　18 年 8 月小売売上高

～ヘッドライン下振れも減税や良好な雇用環境を映じて堅調さ維持～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
主任エコノミスト　桂畑　誠治(TEL:03-5221-5001)

小売・飲食サービス売上高（Retail and Food Services Sales）

	小売・飲食サービス売上高		除く車	耐久財関連（*1）	自動車	家具	家電	非耐久財関連（*2）	衣料品	ガソリン
17/08	＋0.1	(＋3.8)	＋0.6	▲1.1	▲1.8	＋0.5	＋0.6	＋0.8	＋0.2	＋3.2
17/09	＋1.8	(＋5.2)	＋1.3	＋3.2	＋3.9	＋0.2	＋0.3	＋1.4	＋0.5	＋6.2
17/10	＋0.6	(＋5.3)	＋0.3	＋1.0	＋1.4	＋1.8	＋1.0	＋0.4	＋0.9	＋0.3
17/11	＋0.8	(＋6.1)	＋1.2	▲0.4	▲0.9	＋0.7	＋1.5	＋1.5	＋0.8	＋3.4
17/12	＋0.0	(＋5.3)	＋0.0	▲0.1	▲0.1	▲1.1	▲1.5	＋0.1	▲1.3	＋0.7
18/01	▲0.1	(＋3.9)	＋0.1	▲0.9	▲0.9	＋0.1	＋1.3	＋0.1	＋1.0	＋1.6
18/02	＋0.1	(＋4.5)	＋0.4	▲0.5	▲1.1	＋0.2	▲0.9	＋0.3	＋0.5	＋0.2
18/03	＋0.7	(＋5.1)	＋0.4	＋1.1	＋1.9	＋0.7	＋0.5	＋0.4	＋0.1	＋0.0
18/04	＋0.3	(＋4.8)	＋0.4	＋0.2	＋0.2	＋2.7	＋0.6	＋0.5	＋1.5	＋0.4
18/05	＋1.2	(＋6.4)	＋1.4	＋0.7	＋0.6	▲1.8	＋0.1	＋1.2	＋2.9	＋2.9
18/06	＋0.2	(＋6.1)	＋0.3	＋0.0	▲0.1	＋0.3	＋0.9	＋0.1	▲1.0	＋0.6
18/07	＋0.7	(＋6.7)	＋0.9	▲0.1	▲0.1	＋0.0	▲0.4	＋0.9	＋2.2	＋0.8
18/08	＋0.1	(＋6.6)	＋0.3	▲0.6	▲0.8	▲0.3	＋0.4	＋0.4	▲1.7	＋1.7

（注）数字は季調済前月比。但し、（　）内は前年同月比（未季調）。
*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上の合計。
*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

18 年８月の小売・飲食サービス売上高（速報値、季節調整値）は、前月比＋0.1%（前月同＋0.7%）と減速し、市場予想中央値の同＋0.4%を下回った（６、７月合計で 0.2%ｐ上方改定）。自動車販売や衣料品販売の下ぶれが全体の足を引っ張った。もっとも、雇用・所得の拡大、資産の増加のほか、良好な消費者マインド、低い実質金利、株価の上昇などを背景に、小売売上高は拡大基調を維持した。

業態別では、家電、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が増加に転じたうえ、薬局、ガソリンスタンドが加速した。また、通信販売は鈍化したものの高い伸びを維持した。一方、家具、衣料品が減少に転じたほか、自動車・同部品が減少幅を拡大した。また、建設資材、食品・飲料、百貨店など一般小売、飲食店は鈍化した。

８月の小売売上高の前月比（＋0.09%）の寄与度をみると、マイナス寄与の業態では、自動車・同部品が▲0.17%、衣料品が▲0.08%、家具が▲0.01%となった。一方、プラス寄与の業態では、ガソリンスタンドが＋0.14%と大幅な押し上げ寄与となった。次いで、通信販売が＋0.08%、その他小売りが＋0.05%、薬局が＋0.03%、飲食店が＋0.03%、百貨店を含む一般小売が＋0.01%、家電が＋0.01%、食品・飲料が＋0.01%と続いた。なお、スポーツ用品・本・趣味用品、建設資材は 0.00%。

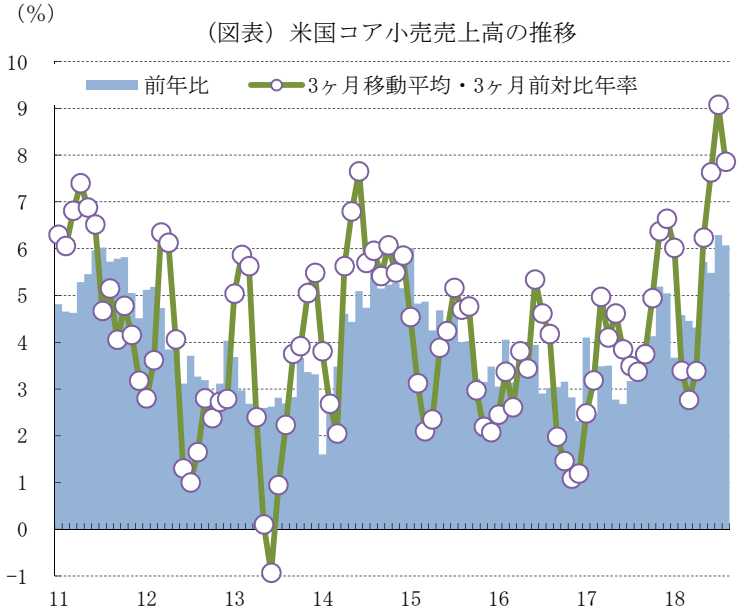
変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比＋0.3%（前月同＋0.9%）と減速し市場予想中央値の同＋0.5%を下回った。しかし、６、７月合計で 0.4%上方改定されたことを考慮すると、実態は市場の想定よりも強い内容といえる。業態別では、家具、衣料品が減少に転じたほか、建設資材、食品・飲料、百貨店など一般小売、飲食店が鈍化した一方、家電、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が増加に転じたうえ、薬局、ガソリンスタンドが加速、通信販売は鈍化したものの高い伸びを維持した。

小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比＋0.2％（前月同＋1.0％）と減速したが、６、７月合計で0.5％ｐ上方改定されており、基調は非常に強いと判断される。業態別では、家具、衣料品が減少に転じたほか、食品・飲料、百貨店など一般小売、飲食店が鈍化した一方、家電、スポーツ用品・本・趣味用品、その他小売が増加に転じたうえ、薬局が加速、通信販売は鈍化したものの高い伸びを維持した。

小売の基調を示すコア小売売上高は、３ヵ月移動平均・３ヵ月前対比年率で＋7.9％（前月＋9.1％）とプラス幅を縮小したが、高い伸びを維持した。全米での雇用・所得の増加傾向、株や不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの安定、インフレの落ち着きなど良好な消費環境を背景に、コア小売売上高の拡大モメンタムは強いままである。８月の小売売上高統計では、ヘッドラインが下振れたものの、基調は堅調さを維持していると判断される。

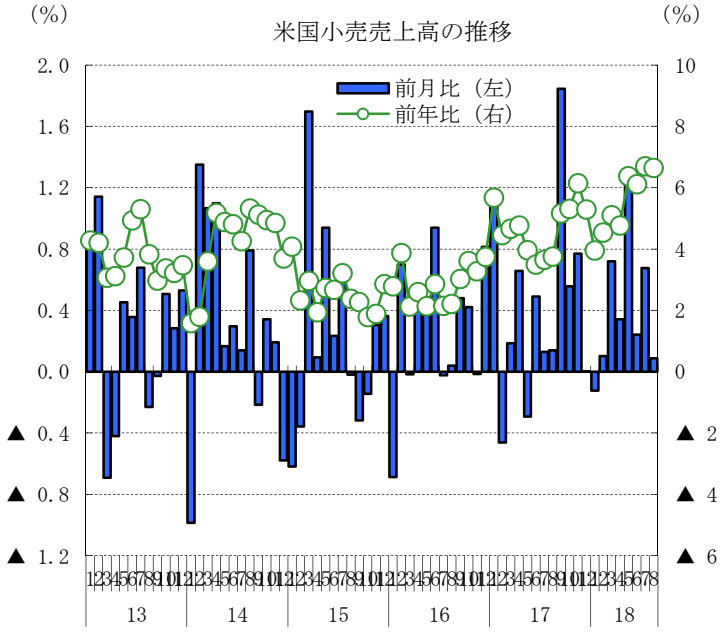
７－９月期の消費動向をみると、７、８月のコア小売売上高（平均）は４－６月期比年率＋6.6％と４－６月期の前期比年率＋7.6％から小幅減速にとどまり、高い伸びを維持している。また、９月のコア小売は良好な雇用所得環境を背景に拡大基調を維持するとみられることから、７－９月期の実質個人消費は前期比年率＋３％程度と４－６月期の同＋3.8％から小幅の鈍化にとどまり、堅調さを維持すると予想される。10－12月期も個人消費は、貿易戦争の影響が懸念されるなか、減税効果、良好な雇用・所得環境等の持続を背景に、堅調さを維持すると見込まれる。

（図表）米国コア小売売上高の推移



（出所）米商務省

米国小売売上高の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。